

柴田幸司

2015年9月5日(土)から9月13日(日)までの間、フランス共和国・パリ市に渡航し、同市内で開催されたヨーロッパマイクロ波会議(European Microwave Conference 2105, EuMW2015)への参加の機会を頂いたので、その時の状況をご報告させていただきます。EuMWは米国IEEE-IMSとならび、ヨーロッパ内の主要都市で毎年開かれるマイクロ波関連技術の世界最大級の国際会議であり、期間中は全世界の研究者が一同に会し最新の成果報告や次世代技術の議論がなされる。今回このような会議にて自身の研究成果の報告が出来たことは一研究者として大変光栄に思う。会議の開催期間中はEuropean Microwave Week(EuMC)と称され、ヨーロッパでマイクロ波関連の仕事に関わる者にとっては一種のお祭り週間という位置づけになっている。会場には関連技術の展示会(エキジビション)も併設され、学問だけでなくビジネスとしての情報交換も活発に行われる。ちなみに、マイクロ波とは比較的波長の短い電磁波の名称であり、工業の用途としては大きく 1. 携帯電話や衛星通信などの通信、2. レーダやイメージ画像取得のセンシング、3. 電波の照射による物体加熱、の3つに分類される。日本で“マイクロ波”と説明してもあまりなじみがないと思われるが、英語圏ではこの単語は“Microwave oven”として有名であり、外国で一般の方に自身の仕事の説明をすると、電子レンジを作っている人と勘違いされることもしばしばである。

実際のイベントへの参加の状況については、今回は旅費圧縮のためベトナムのハノイ経由(南回り)にて、乗り換えも含め20時間近い時間を要してフランス・パリにたどり着いた。そのため、飛行機の機内では余り寝ることが出来なかったのと、若干の時差ぼけで頭痛がひどく到着した当日はあまり活動が出来なかったのだが、9月7日(月)からは予定通り会議に参加することが出来た。会場はパリ地下鉄1号線、Porte-Maillot 駅に隣接した国際会議場 Palais des congrès de Paris である。写真は会場および展示会の様子であり、欧米の企業の出展もさることながら、近年 ICT の発展が目覚ましい中国系企業もとても目立っていた。



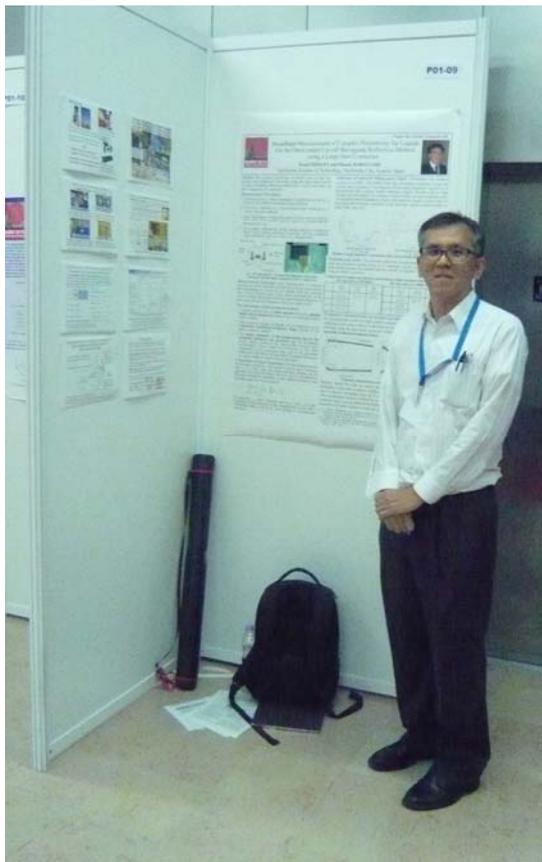
国際会議場前にて



展示会場の中国ブース前にて

なお、今回の自身の研究成果は、液体の複素誘電率測定における大口径コネクタを用いた低周波帯における測定精度の改善に関する内容であり、9月9日(水)にポスターセッションとして展示会場内に資料を貼り付け実施した。ポスターでの発表は自身にとって初めての経験であり、また内容に興味を持ってもらえるか不安だったが、幸い多くの方がブースを訪れて質問等をしてくださり、実りの

多い発表となった。



ポスター発表の会場にて

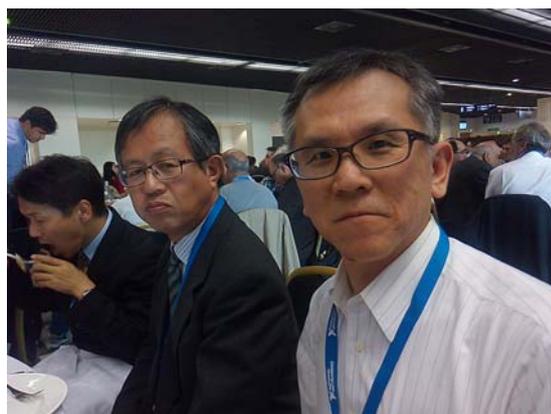


自身のポスター掲示状況

さらに、8月8日（火）の会議終了後は展示会のメインスポンサーである ICT 関連の測定機器で有名なキーサイトテクノロジー主催のウェルカムレセプションにも参加させて頂いた。



ウェルカムレセプションにて



ウェルカムレセプションにて

なお、滞在期間中のパリはサマータイムだったので日の入りも遅く、国際会議終了後の夕方には凱旋門、モンマルトルの丘、エッフェルタワーなどパリ市内の主要な観光名所の視察も出来た。また、これら観光名所や地下鉄の構内、車内など、至る所で音楽家が様々な楽器を用い演奏をしているのが印象的であった。その際、渡航前はフランスの方は色々気難しいと聞いていたので若干の不安があったのだが、実際にはそんなこともなく、気持ちよく一週間を過ごすことができた。しばらく滞在し

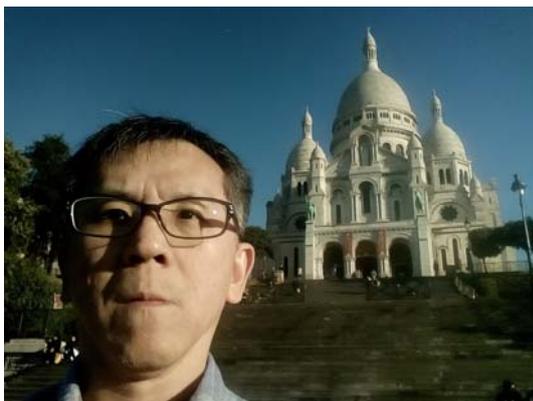
て気がついたのは、フランスの方はとても挨拶を大事にしていることである。お店での会計時、駅で改札を通過時、ホテルでの朝食や廊下でのすれ違い時、宿泊者など知らない人からも必ず「ボンジュール」と声をかけられる。こういう経験は海外ではなかなか無かったので最初は戸惑っていたのだが、帰国時には挨拶をすることが清清しく感じられ、自分から自然と声が出るようになっていた。なお、他にフランスでの重要な挨拶として、こんばんは「ボンソワール」、ありがとう「メルシー」、さようなら「オウボワー」などを覚えておいた方が、旅行での短期滞在でも潤滑なコミュニケーションの手助けになると感じた。



凱旋門にて



モンマルトルの丘にて



モンマルトルの丘にて



ホテルの最寄り駅 Jaures にて



パリ地下鉄内の一風景



オルセー美術館にて



オルセー美術館にて

このように、パリ滞在中は充実した日々を過ごすことが出来ていたのだが、ちょっとしたハプニング

もあった。自身のポスター発表の終わった9月9日（水）の夜に、やはり EuMC の公式行事としてセーヌ川のディナークルーズに参加したのだが、その帰りにパリ地下鉄でスリ未遂にあった。具体的には、クルーズ会場に近い駅から終電も迫った時間帯である 23:00 前に地下鉄 6 号線の電車に乗り、さらにフランクリン・ルーズベルト駅で 1 号線、シャルル・ド・ゴール・エトワール駅で 2 号線に乗換え後に、車内で目の前の席に小学校高学年くらいの女兒二人が座っているのを確認した。こんな深夜の地下鉄に女兒二人とはおかしいなとは思っていたのだが、長時間の会議出席の疲れもあって、その後はあまり気にせずになっていた。しかし、自身が宿泊しているホテルの最寄駅である Jaures 駅で地下鉄を降り、足早に出口に向かったところ、背後に人が追いかけてくるのを感じた。そして、次の瞬間にスラックスの右ポケットに手を突っ込まれ、危うく財布を抜かれそうになった。振り返ると、改札口辺りで例の女兒二人がこちらを見ており、おどけた様子でホームへと戻って行ったのであった。

後で調べてみるとパリ市内の地下鉄はスリで有名のようで、東欧などから渡ってきたロマがパリ郊外のキャンプに住み着き、その子供がこのような残念な振る舞いをしているとのことであった。その他のパリ市内の観光地でも署名スリなどに出くわすことが多くあったのだが、地下鉄での一件は特に怖い出来事であった。当方、スペイン・バルセロナでも同様な目に会っていたのだが、パリでの滞在も慣れかけたころに気が緩み、再びこのような目に会ってしまい大変遺憾である。

但し、全体としては様々な交流をすることが出来、得るものの多い海外出張となった。最後になりますが、現地で様々な手助けをしてくれた方、交流を深めて下さった方々、ならびに種々の業務ご多忙の折、このようなありがたい機会を与えてくださいました学校法人・八戸工業大学の皆様に深く感謝いたします。